研究目的

藻場やサンゴ礁に代表される沿岸生態系は高い生態系サービスを有しているだけでなく、水産資源を直接的に育むゆりかごとしても極めて重要である。一方、地球温暖化・海洋酸性化・貧酸素化といった全球的な要因や、過剰漁業・土地利用変化・富栄養化といった局所的な要因が複合的に重なり合い、沿岸生態系の分布・多様性・機能は変化しており、将来の人間社会に対する影響も懸念されている。これらの要因に対する沿岸生態系の影響評価・予測が国内外の様々な大型プロジェクトのもと推進されているが、プロジェクト間の相互の情報交換や連携は十分とは言いがたい。このような背景に鑑み、本ワークショップを参加者各人のこれまでの研究成果を持ち寄り、情報交換を行うことで沿岸生態系の評価・予測に関する相互理解を深め、今後の研究推進と相互協力・共同研究の契機とする。

研究方法

代表者（藤井賢彦）と分担者（吉江直樹）らがコンビーナーとなり、2024 年 12 月 16 日、17 日の両日に対面とオンラインのハイブリッドで標記ワークショップを開催した。具体的な研究発表内容については、別添のプログラムを参照されたい。

研究成果

32 名の参加を得て、本ワークショップ開催の目的は達成されたと考える。特に、コロナ禍以降定着したオンラインの併用により、現地開催では日程的・予算的に都合がつかなかった参加者を取り込むことができた。

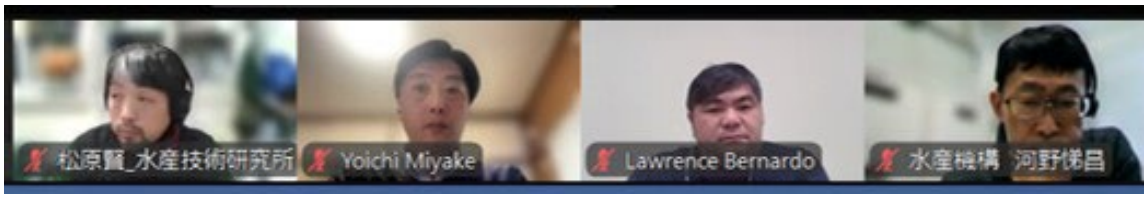
第 7 回までと同様、同研究分野に関する研究推進と相互協力・共同研究、ならびに次世代を担う若手研究者の育成を促進する国内プラットフォームを、代表者・分担者・拠点対応教員らが中心となって構築していくための契機とすべく、今後もワークショップの開催を継続・発展していくことで合意を得た。

成果発表

該当なし

今後の課題

上記の研究目的を達成するために、通常の学会等では難しい、発表と質疑の時間を十分に確保することが本ワークショップの目指すところであった。しかし、当初の想定を上回る参加者数・発表件数を得たことで、結果として設定した時間枠では個々の発表・質疑に費やせる時間を十分確保出来たとは言えず、この点を改善することが今後の課題である。様々な観点から活発な議論を展開していく観点からは、現行の参加者数は適切と考えられるので、開催期間と共に発表・質疑時間を拡大することが対策として考えられる。


松原賢_水産技術研究所
Yoichi Miyake
Lawrence Bernardo
水産機構_河野悦昌

第 8 回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ

日時: 2024 年 12 月 16 日（月） 13:00 ～ 17 日（火） 17:00 (オンライン併用)

場所（会場の地図は次頁参照）:
12 月 16 日: RCC 文化センター貸会議室 611 号室
〒730-0015 広島市中区橋本町 5-11
https://www.rccbc.co.jp/kaigi/access.html
JR 広島駅南口より徒歩 10 分
zoom オンライン情報 ID: 875 6028 6833
https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/87560286833
12 月 17 日: 水産研究・教育機構 廿日市庁舎（旧・瀬戸内水研） 会議室
〒739-0452 広島県廿日市市丸石 2-17-5
電話 0829-55-3563
JR 山陽本線大野浦駅（宮島口より岩国方面へ 2 つ目）から徒歩 15 分。
zoom オンライン情報 ID: 859 5388 1203
https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/85953881203

コンビーナ: 藤井 賢彦（東大）・鬼塚 剛（水産機構技術研）・吉江 直樹（愛媛大）

スケジュール
12/16（月）
12:30 - 13:00 受付
13:00 - 13:15 趣旨説明・自己紹介
座長:藤井 賢彦（東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター）
13:15 - 13:35 藤田 一世「北海道沿岸域におけるイカナゴの潜砂行動の解明と漁獲圧の評価」
13:35 - 13:55 伊藤 慶造「音響手法を用いた北海道能取湖におけるアマモ場による生態系サービスの試算」
13:55 - 14:15 朱 妍卉「水中音響を用いた沿岸生態系の評価に関する事例紹介」
14:15 - 14:35 仲岡 雅裕「アマモと葉上動物群集の北半球温帯域全域における変異とその形成機構（仮）」
休憩
座長:児玉 真史（水産研究・教育機構生産技術研究所廿日市拠点）

14:50 - 15:10　BERNARDO Lawrence Patrick Cases「Development of a numerical modeling approach to investigate ocean acidification states in the Western Seto Inland Sea」
15:10 - 15:30　LENG Qian「Simulating zooplankton variations in Hiuchi Nada using a 3D　physical-ecological model」
15:30 - 15:50　WU Zhaosen「Interannual variation of nitrogen fluxes at the sediment-water interface in Harima Nada」
15:50 - 16:10　LU Xinyu「Development of Intertidal carbon-based ecological model」
写真撮影
休憩
座長：吉江　直樹（愛媛大学先端研究院）
16:25 - 16:45　石田　拳「海洋環境変化に対する北海道南東部の岩礁潮間帯生物群集の応答」
16:45 - 17:05　山北　剛久「eDNA データによる植食魚類の分布と生息適地推定」
17:05 - 17:25　門田　雅仁「トカラ海峡周辺における栄養塩添加に伴う低次生態系応答」
17:25 - 17:45　梶原　直人「堆積物底の物理的性質に向き合う」
片付け・移動
19:00 -　懇親会

12/17（火）
座長：鬼塚　剛（水産研究・教育機構生産技術研究所廿日市拠点）
9:30 - 9:50　鬼塚　剛「マガキ天然採苗の安定化に向けた調査研究」
9:50 - 10:10　伴　広輝「ゲノムマイニングアプローチによるワカメ（*Undaria pinnatifida*）に感染する巨大核質 DNA ウイルスの探索」
10:10 - 10:25　井川　桜「写真識別データを基にした、小笠原群島父島周辺海域におけるシロワニ（*Carcharias taurus*）個体数推定の試み」
10:25 - 10:40　泉谷　博美「北海道ユルリ島周辺における藻場の分布推定」
10:40 - 10:55　津金　響子「夜間人工光が海洋付着生物群集に与える影響」
休憩
座長：仲岡　雅裕（北海道大学厚岸臨海実験所）
11:10 - 11:25　細川　琉平「燧灘南西部におけるノリを導入した低次生態系モデルを用いた研究」
11:25 - 11:40　山岡　昂平「東シナ海陸棚斜面周辺域における低次生態系の時空間分布」

11:40 - 11:55　尾上 遥「播磨灘における植物プランクトンの長期変動」
11:55 - 12:10　安藤 岬「豊後水道における急潮進入に対する低次生態系応答」
12:10 - 12:25　橋本 元緯「瀬戸内海西部佐田岬における海洋酸性化モニタリング」
昼食・休憩
午後　瀬戸内水研・宮島水族館見学（参加任意）
17:00 解散（予定）